

東ティモール民主共和国



東ティモール民主共和国 (東ティモールと呼ばれることが多い) はオーストラリアの北西、インドネシア列島の最南端の東南アジアに位置し、国土の広さはおよそ 14,874 km² です。東ティモールは 1975 年 11 月 28 日にポルトガルから独立しましたがその後インドネシアに占拠され、2002 年 5 月 20 日にインドネシアから独立し、現在発展途上にある議会制民主主義の国です。13 の自治体があり、独特の文化、歴史を有しています。首都は デイリ。熱帯気候で乾季(6 月～10 月)と雨季(11 月～5 月)があります。世界銀行によれば 2019 年現在の総人口は 129 万人、95%がローマカトリックです。

公用語にはテトゥン語とポルトガル語があり、さらにインドネシア語と英語が実用語として用いられています。ファタルク語、マカサエ語、ブナク語、ケマク語といった方言が 35 あります。農業が主な産業で、コーヒー、米、とうもろこし、キャッサバ、さつまいも、大豆、マンゴー、バナナ、バニラなどを生産。特にコーヒーは石油・液化石油ガスに次ぐ輸出品で、27.5%の世帯が生産、日本にも輸出しています。

東ティモールは、金、石油、天然ガス、マンガンなどの天然資源に恵まれており、美しい海やサンゴ礁など観光資源も豊かで、ダイビングやシュノーケリングも人気があります。

位置



伝統的な建物 ウマ・ルリック



伝統的衣装 タイス



ハンドクラフト



伝統的な食事



バタール・ダーン
(もろこし)

エトゥ
(フォレ豆とご飯)



フェフク・ダーン
(サツマイモなど)

観光スポット



ジャコ島



アタウロ島

特産物 コーヒー・バニラ



市場



参照

https://www.nationsonline.org/oneworld/timor_lete.htm